

R 7 年度努力点推進計画（案）

主体的に学習に取り組む児童の育成
～児童が自走するための手立てを講じて～

1 研究のねらい

「ナゴヤ学びのコンパス」では、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を求めている。本校では、有能な学び手である児童が主体的に学べるように、自分に合った学び方や学習方法を身に付けていけるように授業実践を積み重ねてきた。具体的には、「個別最適な学び」「協働的な学び」を意識して、昨年度は、それらの一体的な充実を図れるように指導方法を工夫して、担任をもつ教員が指導案を作成した授業を行った。

その結果、児童が I C T を効果的に活用したり、仲間と学ぶ中で、自分に合った課題を選択したり追究したりする学習を志向していこうとする機運が見られた。

一方で、児童が主体的に学習に取り組む「自走した学び」を目指すにあたっては、教師の入念な準備、計画が必要不可欠であるということを痛感した。近年、教師は児童の学びに伴走するという意識が教育界にも浸透している。教師が授業の舵取り役として、知識や解決策を提示するだけでなく、児童がもつ経験値や知識、感情を尊重し、寄り添い、時には、児童の考えに揺さぶりをかけるなどして、学習のねらいに迫れるように指導方法の工夫が望まれる。学年や学級の実態に合わせて「自走する姿」を設定し、その姿に迫るための手立てを講じ、実践を行う。これを継続することで、児童が自信をもって新たな考えに気付いたり、問題解決策を発見できたりすれば、児童の主体性を育むことにつながると考える。

【主体的に学習に取り組む児童に迫るために】

「ナゴヤ学びのコンパス」の考え方を基に、教師が児童の学びに伴走するという意識をもって手立てを講じ、学習のねらいに迫れるように授業改善を図り、児童の主体性を育む。